

2023年8月27日
宮崎中部教会主日礼拝（代読）
牧師 乾元美

詩編 106 : 47～48

コリントの信徒への手紙二 1 : 20～22

「然り、アーメン」

【招詞】 詩編 29 : 2

【讚美歌】 25 「父、子、聖霊に」

【詩編交読】 詩編 32 編

【赦しの宣言】 イザヤ書 55 : 7 「主に立ち帰るならば、主は憐れんでくださる。

わたしたちの神に立ち帰るならば／豊かに赦してくださる。」

【讚美歌】 17 「聖なる主の美しさと」

【祈祷】

【聖書】 詩編 106 : 47～48、コリントの信徒への手紙二 1 : 20～22

【説教】 「然り、アーメン」

< 「アーメン」という言葉 >

わたしたちは、いつも祈りの最後に「アーメン」と唱えます。

「アーメン」とは、ヘブライ語や、イエスさまが使っておられたアラム語そのままの言葉です。日本語にすると、「まことに」、「本当に」、「真実です」、という意味で、少し古い言葉だと、「然り」と訳されました。そうです、その通りです、という意味です。

英語だと、ここは「Yes!」。「はい」とか、「よし」とか、肯定する言葉です。

これは、世界中の、すべてのイエスさまを信じる者たちが、声を合わせて祈りの最後に言う言葉です。祈りの最後に、まことに、真実に、然り、アーメン、と。

しかし、一体どうして、わたしたち教会に属する者はみな、「アーメン」と言って祈るのでしょうか。

< 約束が「本当に」 >

コリントの信徒への手紙二 1 : 20 の一文目には、こうありました。

「神の約束は、ことごとくこの方において『然り』となったからです。」

この「然り」も、ギリシア語で「アーメン」という言葉が使われているのです。

さて、ここに、「神の約束」は、ことごとくこの方において「然り」となった、とあります。この「神の約束」とは、旧約聖書の時代から、父なる神さまが、アブラハム、イサク、ヤコブを通して、またイスラエルの民を通して約束されてきた、わたしたちすべての人間を祝福する、救う、という約束のことです。

父なる神さまは、預言者を通して、この地上に救い主、メシアを遣わし、すべての人間を祝福し、罪から救い出すご計画を示し、必ずそれを実現する、と約束なさいました。

その、「神の約束」が、「ことごとくこの方において『然り』となった」、アーメンとなった、と今日の聖書は語っています。

「この方」というのは、わたしたちの主イエス・キリストのことです。

旧約聖書を通して語られてきた、すべての神さまの約束が、ことごとく、神の御子である、主イエス・キリストにおいて「然り」となった。まこととなった。本当になった。真実となったのです。

そして、この御子イエスさまによって実現した約束を、その祝福を、救いを、父なる神さまは、わたしたち一人一人を選び、名を呼び、御許に招いて、与えて下さるのです。

<「よし」としてくださる神さま>

しかし、わたしたちには、どうしてこのような「神の約束」が必要だったのでしょうか。

そして、どうしてわたしたちは、その恵みを、祝福を、神さまからいただくことが出来るのでしょうか。

そもそも、一番はじめに、わたしたちは造られた時から、神さまに「然り」、「よし」とされた存在でした。

創世記には「神は御自分にかたどって人を創造された。神にかたどって創造された」とあります。神にかたどって人が創造されたとは、神さまと呼応する存在、神さまの呼びかけに応え、神さまと共に生きる存在として、わたしたちは造られた、ということです。

そして、神さまは人を祝福し、「神はお造りになったすべてのものを御覧になった。見よ、それは極めて良かった」とあるのです。

神さまは、造られたわたしたちを、「極めて良い」と言って下さり、はじめから「よし」として下さっています。何かが出来る、出来ないに関わらず、お造りになった時から、神さまの御前にある、わたしたちの存在そのものを、愛し、喜び、祝して下さいます。

それなのに、この祝福を手放したのは、愛を裏切ったのは、神さまに背き離れてしまったのは、わたしたちの方だったのです。

わたしたちは、神さまに愛され、生かされ、守られてきたのに、神さまの御心を忘れ、背き、逆らう、深刻な罪を犯しました。罪というのは、わたしたちが神さまの御心に従わないで、神さまから顔を背けて、自分の好き勝手に歩もうとすることです。

神さまは、わたしたちが、神さまの呼びかけに応え、神さまを愛して生きるように。また隣人を自分のように愛して生きるようにと、求めておられました。

でも、すべての人間は、罪によって、この神さまの求めに従って生きられず、神さまから離れて、自己中心的に、自分勝手に歩んでしまっているのです。

そのように、わたしたちすべての人間は、神さまの怒りを受け、裁きを受け、死んでも償いきれないような罪を背負っていたのでした。

そしてわたしたちは、そんな自分の罪の悲惨さにも気付きません。

一見、わたしたちにとって、自分の人生を、自分の好きなように生きることが、楽しく、自由なことのように思えるかも知れません。でも、好き勝手に生きることが、わたしたちの人生の幸せなのでは、決してありません。

人間が、それぞれ自分の好きなように、自分が思うままの自由を生きようとする時。わたしたちは、自分のことしか考えず、人を傷つけたり、また傷つけられたりします。他の人と自分とを比較して、多く持っていれば傲慢になり、貧しければ嫉妬したり、卑屈になったりします。それは、わたしたちの間に、分断、分裂をもたらします。

また、わたしたちが、神さまなしに生きようとする時。わたしたちが頼るのは、自分の力や、能力や、この世の様々なツールです。自分の力が強くて、自信があって、色々なものを手に入れて、全部が上手くいっている時は良いでしょう。しかし、自分自身も含めて、世のものはすべて、いつか必ず、弱くなったり、失われたりしてしまうものです。

そんなものに頼っていたなら、そこで最後に待っているのは、絶望しかありません。

しかし、わたしたちの本当の幸せ、本当の喜びは、神さまにこそあります。

わたしたちを造って下さり、愛して下さる神さまを知ること。その神さまにこそ頼って、神さまと共に生きることが、わたしたちの本当の幸せです。

そして、それこそが、神さまに造られて「よし」とされた者の、一番の祝福なのです。

神さまは、わたしたちの深刻な罪にも関わらず、わたしたちを愛して下さり、いつまでも共に生きることを願って下さいました。祝福を与えたいと、願って下さいました。

このお方は、わたしたちを「よし」として下さることをお止めにならず、わたしたちの祝福を、取り上げたりなさいませんでした。

むしろ神さまは、祝福を失ったわたしたちに、祝福を取り戻させるために、イスラエルの民を選んで約束を結び、ご自分の愛する独り子イエスさまを与えて下さったのです。

そして、この方が、わたしたちが担えない苦しみを担い、わたしたちが背負えない罪を代わりに背負い、わたしたちが償えない罪を、すべて償って下さいました。

わたしたちは、このイエスさまによって、罪によって失ってしまった、神さまの御前に、真実に立つ、本当に立つ、その恵みを、神さまに「よし」、「然り」とされる祝福を、取り戻していただいたのです。「神の約束は、ことごとくこの方において『然り』となった…。」

神さまは、イエスさまによって与えて下さる、この約束による救いを、新たに差し出された祝福を、わたしたちが、ただ受け取ることを望んでおられます。

神さまは、わたしたちが、イエスさまの救いを信じ、受け入れることで、ただ、その信仰によって、救いの恵みを、すべての祝福を、与えて下さるといなのです。

イエスさまが、わたしの救い主だと信じる時、わたしの罪は、この方の十字架によって赦されます。この方の復活の命が、わたしを生かすためであったと受け入れる時、わたしたちは、神の子として、新しい命を生き始めます。

神さまの救いの約束を、イエスさまが、このわたしのために実現して下さいました。イエスさまの十字架の死と復活は、わたしを救って下さる神さまの約束を実現するためだった。

わたしたちが、そのことを信じて受け入れた時。神さまは、それで、わたしたちのことを、「よし」、「然り」、「Yes!」と言って、認め、受け入れ、肯定して下さるのです。

神さまがわたしたちを「よし」として下さること。

それは、人から「よし」とされること、例えば何か成功して認められることや、仲間に受け入れられることや、立派な行いをして褒めてもらうようなこととは、まったく違います。

わたしたちが人から「よし」とされる時、それは、わたしが何か努力をしたり、能力を生かしたり、良い行いをした結果だったりします。

でも、神さまの「よし」、「然り」は、無条件です。

わたしたちは神さまに対して、何か良いことをしたり、認められることをしたり、あるいは、悪いことをしなかったのではありません。わたしたちは神さまに喜ばれることは、何もできませんでした。むしろ、神さまに従わず、神さまを怒らせ、悲しませてきました。同時に、隣人や、周りの人を傷つけてきました。

でも、神さまは、わたしたちをお造りになった時点で、わたしたちの命を、わたしたちの存在そのものを、「よし」として下さっていました。そして、わたしたちに罪の赦しも、新しい命も、復活の約束も、愛によって、すべてを惜しみなく与えて下さるのです。

<「アーメン」と祈ること>

わたしたちは、御子イエスさまによって、目の前に差し出していただいた救いの恵みを、ただただ、感謝して受け取ります。

そして、「よし」、「然り」として下さった神さまに向かって、わたしたちもまた、「然り」、「アーメン」と唱えるのです。あなたの救いはまことです。あなたの恵みは本当です。あなたの愛は真実です。そう、神さまにお応えするのです。そうして、神さまの祝福に生きていくのです。

お祈りの最後に唱える「アーメン」は、この「然り」です。

今日の御言葉にも、こうありました。「神の約束は、ことごとくこの方において『然り』となったからです。それで、わたしたちは神をたたえるため、この方を通して『アーメン』と唱えます。」

わたしたちは、イエスさまを通して「アーメン」と唱えます。

神さま、あなたはわたしを「よし」として下さいます。あなたは約束を実現し、「然り」として下さるお方です。あなたはわたしを、御前に正しく立つ者として下さいます。その、あなたの呼びかけに、わたしはお応えいたします。そのあなたの御力に、信頼して祈ります。あなたの愛こそ、真実です。すべては、あなたにあって然りとなります。その通りです。イエスさまの御名によって、「アーメン」と。

「アーメン」とは、それほどに、神さまの真実を告白するような言葉です。この一言で、神さまをすべて受け入れ、またわたし自身のすべてを差し出すような言葉なのです。

そして、黙示録には、「アーメンである方、誠実で真実な証人」という言葉があります。アーメンである方、誠実で真実な証人。つまり、「アーメンである方」とは救い主であるイエスさまご自身のことなのです。

そうであるなら、わたしたちはただ「アーメン」と唱えるだけでも、十字架と復活のイエスさまのお名前を呼んでいることにもなります。

それほどの言葉を、わたしたちは、自分たちの拙い、幼い、祈りの最後に唱えます。

わたしたちの祈りは、神さまの御心から、程遠いものかも知れません。わたしたちは、祈りにおいてさえも、自分勝手なことを求め、罪を犯しているかも知れません。

でも、わたしたちは、祈ることが出来ないのではないし、それでも、祈ってよいのです。聖霊の導きの内に、祈ることが出来るのです。

イエスさまの御名を呼び、「アーメン」と祈るとき。それは、この祈りの只中に、イエスさまがわたしと共にいて、働いて下さるということです。そしてこの方が、すべてを神さまの御心のままに、「然り」として下さるのです。

わたしたちは、祈りを、感謝を、願いを、このイエスさまの御手に、「アーメン」と共に、委ねてよい。「アーメン」と祈れることは、とてつもない幸いです。

わたしたちが、このように、イエスさまと共にあって「アーメン」と祈りつつ人生を歩むなら。わたしたちは、どんなに苦しい時も、悲しい時も、嬉しい時も、感謝の時も、すべて神さまが「よし」、「然り」と言って下さる、祝福の中に置かれているのです。

イエスさまが、与えて下さったこと。わたしたちが、神さまに愛されている存在であり、祝福の内にあり、神さまと共に生きる永遠の命に与っていることは、この世の何者にも、どんな出来事にも、奪われることはありません。

神さまの御許にいるならば、イエスさまが共にいて下さるならば、「アーメン」と祈りつつ歩むならば、どのような一日も、どのような人生も、神さまは「よし」として、わたしたちのことを受け入れて下さいます。

神さまが「アーメン」と言って下さり、わたしたちもまた、「アーメン」と言えるのです。

そして今、わたしたちは、共に神さまを礼拝しながら、イエスさまに結ばれた信仰の兄弟姉妹たちと一緒に、声を合わせ、心をつにして、「アーメン」と祈ることができます。

ここに、確かに、神さまに「よし」とされ、救われた群れがあります。イエスさまの真実に、生かされている群れがあります。聖霊によって、一つに結ばれた群れがあります。

この群れは、終わりの日が来るまで、心をつにして、共に祈り続けます。

一人一人では、悩みの日、苦しみの日に、祈ることが出来ない日もあるかも知れません。でも、たとえ一人では祈れない時があっても、この群れの祈りの中に置かれているならば、共に「然り」とされ、共に祝福を受け、共に歩いていくことができるのです。

「アーメン」と、共に祈ることが出来るわたしたちは、まことに幸いです。

【お祈り】

天の父なる神さま

アーメンである方、御子イエスさまが、救いの約束を実現して下さい、ここにいる一人一人の罪を赦し、「然り」として下さること。あなたの愛が真実であること。あなたが、わたしたちを「よし」として受け入れて下さること。心から、感謝いたします。

わたしたちは、この祝福の内に、聖霊の導きによって、イエスさまの名によって祈る者とされています。あなたをほめたたえて、「アーメン」と唱えることをゆるされています。

わたしたちが一つになって、声を合わせて、神さまの御言葉に「アーメン」とお応えし、あなたの祝福の内に生きていくことができますように。

このお祈りを、イエスさまの御名によって祈ります。アーメン

【讃美歌】 352 「来たれ全能の主」

【信仰告白】 ニカイア信条

【十戒】

【献金】 65-1 「今そなえる」

【主の祈り】

【祈祷】

【讃美歌】 26 「グローリア、グローリア、グローリア」

【黙祷】